

令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第1講 開講式、オリエンテーション

講師及び担当：名和田学長、山路コーディネーター、藤村（担当）

日時：令和2年7月18日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）
参加者：6期生（8）、学長、コーディネーター、ナビゲーター（5）、
緑区社会福祉協議会（2）、サブナビゲーター（2）、緑区長、事務局（5）
合計：25人（Zoom参加：14名）

●学習目標

1. スクールの開講の主旨を理解する。
2. 全6講の講座の流れと内容を理解する。
3. 横浜市における市民活動の事例を知る。
4. 自己紹介を通じて仲間との交流を深める。



開講式の様子

●内容

1. 開講の基調講演「地域活動・市民活動への誘い」
～横浜の豊かな市民社会にあなたも参画しよう～
◇自治会、地区別計画、助成金等の活動の基礎的な知識の習得
◇行政との協働による具体的な市民活動の事例説明
2. 自己紹介
◇6期生一人2分で自己紹介（体調不良で欠席の6期生もZoomで自己紹介した。）
3. オリエンテーション
◇地域づくりの着眼点と基本的な考え方
◇全6講の全体の流れと、目的や学び方、「夢プラン」策定の手順について説明
◇横浜市の市民活動の実例集「ザ・まち普請」の紹介と斡旋



山路コーディネーターによる
オリエンテーション



実験的試み
会議アプリ「Zoom」による配信

6期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



◆講座の中で講座の中で「印象に残ったこと」、「今後生かしていきたいこと」などをご記入ください。

- 数年前から、3rd プレイス（学校や職場、家庭、以外の第三の居場所）的なサロン（カフェ）作りに興味があり、その準備を出来る範囲でやってまいりました。自分の考えていたものと、（学長講話にあった）『コミュニティカフェ』と、重なる部分が多く有り、大変参考になりました。
- （学長講話の中で）横浜市民の自治会加入率が高いのは驚きでした。自治会というと地方のほうが活発なイメージでしたが、もしかしたら退職後の方々が、新しい活躍やつながりの場を求めて、自治会に入られているケースも多いのかな？と思いました。
- 参加者の方々の自己紹介を拝聴して、多様な方が集まっておられることに、とてもワクワクしました。いろんな方と、おいしいものを食べながら、ゆっくりお話しをしてみたいです。
- 緑区近くにはズーラシアや花と緑の里など恵まれた環境があること、緑区の活性化に向けて一歩、あゆみ出した気分です。
- 山路コーディネーターのオリエンテーションで「自分のできることに魂を込めて・・・」という部分が大変、心に響きました。
- 今後、高いレベルを共有できるか不安。「話術の向上」を望みます。
- 地域社会、市民社会、横のつながりが大切。情報の共有、沢山学ぶことがあると思う。
- 「出会い、学び、成果」を楽しみながら自分に出来る事を考えていきたいと思います。
- 名和田先生の講義で横浜市の市民活動の様子が理解できて良かった。活動中のナビゲーターやサブナビゲーターにいろいろ相談にのって頂けそうで楽しみです。



コメント欄（担当ナビゲーター：藤村）

- とにかく、このコロナ禍の中で無事に出来た事は評価しても良いと思う。
- コロナ禍の影響で、例年に比べて7講から6講とし、一回の講義時間も縮小。そして1か月遅れて7月の開講、受講生も10名と約半数で開講した。全員の検温、マスク着用、設営も間隔を取り、感染症予防に注意した。
- 今回はZoomを用いたオンラインを導入し、人数制限で会場に来られない修了生や、体調不調の受講生にも参加してもらった。Zoomについては、ホストの重要性和難しさが判った。今年度ならではの評価につながると思う。
- Zoomで共有する講師のパワーポイントの著作権について今後は注意していきたい。今までは出席者には紙ベースで資料を提供していたが、Zoom配信の際のパワーポイントの取扱いを考えていきたい。
- 第1講で受講生の自己紹介を聞いた。目的がある程度、見えている人やこれから考える人など思いはさまざまである。今後は活動が具体的になるようにアドバイスをしていきたい。
- 辛口のコメントもあった。本スクールの主旨である「出会いの場」「学びの場」「成長の場」を理解してもらえるように接していきたい。
- 満足度は88.5%と概ね良好であった。

令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第2講 活動団体の話を聞こう、自分の資源に気づこう

講師及び担当：山路コーディネーター、岡部、後藤、森（担当）

日時：令和2年8月22日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）
参加者：6期生（8）、コーディネーター、ナビゲーター（5）、サブナビゲーター（3）、発表者（3）
都筑区（1）、瀬谷区（1）事務局（4）
合計：26人（Zoom参加：10名）

●学習目標

1. 活動団体発表

経験豊かな先輩から「活動を始めたきっかけ、活動の苦勞、やりがい」についての体験談を聞く。

2. 資源に気づこうワークショップ ～自分の棚卸～：「個人の資源」、「地域の資源」 に気づくことで「夢プラン」作成のヒントとする。

●内容

活動団体発表

●ボイス日本語クラブ：代表 小野原順子さん

活動の苦勞があっても「ずっと続けている理由」を語ってくれた。課題は「外国人技能実習生の地域参画の後押し」「コロナ禍でのサポート体制」等。



●鴨居原市民の森愛護会：会長 菅原喜勇勝さん

「楽しい活動」にすることが第一だと思う。コロナ禍で屋外の活動が注目されたせいか会員が増えた。自身のモットーは「議論はしても喧嘩はしない。」



●新治中部地区連合自治会会長・寺山町自治会

会長：臼井孝一さん（修了生）

家族を愛し、地域を愛し、自治会を愛してほしい。（「ひと・まち」で）出会いがあり、自己啓発の学びを深める場になった。



自分の資源に気づこう

6期生の「好きなこと（趣味）」「得意なこと」を発表した。

旅行、食べ歩き、スポーツ観戦、お寺巡り、フライフィッシング、盆栽、ドライブ、キャンプ、就職支援、書道、サックスを吹く等、改めて自分の得意なことは何かに気づき、他者に知らせる機会を設けた。

山路コーディネーターから6期生へ

- ・コミュニケーション力を付けていただきたい。
- ・ひとまちスクールは何のためにやっているか、「アンテナ」を張ってほしい。

- 相手の話したいことを聞く力を持つこと、自分がどんな役に立てるかを意識して行ってほしい。

6期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）

「印象に残っていること」、「今後活かしていきたいこと」をご記入ください。



- 里山（鴨居原市民の森）を守っている人たちがいてうれしかったです。
- 今回のスクールに参加できたことで知り合えた方々と回を重ねつつコミュニケーションを大切にしたいと思います。
- ボイス日本語クラブに興味を持ちました。2～3年後、時間が取れるようになればボランティアとして参画したいと思います。
- 「自分の資源に気づこう」ワークショップは6期生のさまざまな発表が良かったです。今後うまく連携できればと思います。
- 受講生がそれぞれの資源を発表し、その内容がとても興味深かったです。直接お話ししてみたいなと思いました。
- 活動団体の話では、3名の方それぞれ違った視点からのお話をされとても面白かったです。
- どの取り組みもやりがいや誰かの役に立てる活動で、ぜひ見学してみたいと感じました。
- きょうの内容を改めて自分のペースで考えつつ、何より「仲間」と「楽しい」活動ができるといいなと思いました。
- 山路コーディネーターの講評で「人はそのときそのときで好きな事や興味の持てることは変わっていく。その気持ちをうまく活用する力をつけるが良い」というお話が前向きになれるアドバイスとしてありがたく感じました。



コメント欄（担当ナビゲーター：岡部）

- 人数制限をしているためオンラインを通して学長や修了生が10人も参加してくれた。無事終了、ホットしている。（韓国から聴講してくれた3期生がいた。）
- 6期生の「自分の資源に気づこう」の発表を聞くと、様々な趣味や得意なことがあることが分かった。そこから話が弾む効果や活動に貢献する糸口が見つかる。
- 昨年とは異なり第2講が全体で1時間30分短縮となっていることやランチタイムも設けられないため6期生同士のコミュニケーションが取りにくい状態がある。第3講以降の課題として考えていきたい。
- 山路コーディネーターの「コミュニケーション力」を付けようは、「ひと・まち」スクールの大切な目標のひとつ。人とのつながりが活動を上げていくことを常に意識したい。
- 6期生（受講生）が「出会いの場」から地域の市民活動や自治会活動に参加したいと思えるような「成長の場」へ進むようこれからも応援していきたい。

令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第3講 街の資源を知ろう、夢プランを作るために

講師及び担当：山路コーディネーター、市民局市民協働推進課 松岡氏、金子、西田、野場

日時：令和2年9月12日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどり一む）
参加者：6期生（6）、講師、コーディネーター、ナビゲーター（4）、
サブナビゲーター（3）、都筑区（1）、事務局（3）合計:18人
Zoom参加：23人（修了生（9）他区職員（12）、緑区職員（2））

●学習目標

1. 緑区の自然の成り立ちを知る。福祉の専門的施設の役割を知る。市民活動の拠点の役割を知る。
多方面から緑区の資源を知ること、自身が描く「夢プラン」がどことつながると情報を得られるかを学ぶ。
自身のやりたいことを地域で有効活用させていくには、どのような方法があるのか、誰に相談すればよいのかを知る。
2. 「夢プラン」を作り、実現するために必要なこと「ひろがり」と「時間」を学ぶ。

●内容

- ・「ムラの軸とトシの軸」
- ・施設を知ろう 緑区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、市民活動支援センター
- ・講演「夢プランを作り、実現するために」～必要なものは「ひろがり」と「時間」ふたつの事例から～
事例1 青葉区荏子田の「まち普請」ゴールイメージの明確化 賛同者を増やす
事例2 あるマンションの雑木林の管理 ～機が熟すタイミングを待つ
じんわりと働きかける～
- ・6期生と語る 思いを言葉にする時間（トークセッション）



6期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



- 緑区の歴史（ムラの軸とトシの軸）は在住 15 年弱の私にはとても興味が深く緑区愛アップです。
- デイカッション形式も楽しく「ひと・まち」スクールは仲間と出会える場というコメントに、これまでの参加者の方々の想いを感じました。
- 松岡氏の講義は話術も巧みでよくわかりました。私的な内容のリアルな話の中で「罨を仕掛けた等」興味深い話に最後まで引き込まれました。
- 自分の「想い」を共有できて且つ仲間になってもらい実現させていく・・・というプロセスがとても大切であり果たして自分にそこまでできるのか！？と感じました。
- 松岡さんのお話は分かりやすく「活動の辞め方も大切だ」という部分も目からうろこでした。いずれにせよワンマンプレイでは何事も成しえないと痛感しました。
- 地域の地形、まちの成り立ち、緑区、横浜を今までと違う視点で学ばせていただきました。
- 今回も内容が多岐に渡り、大変勉強になりました。ひとりで何かをしようとするのではなく、仲間を見つけて長く続けられる「何か」を、まずは小さく、始めてみたいと思いました。
- トークセッションで6期生全員の意見を聞いたのがよかった。



講師と
トーク
セッション



コメント欄

- 山路コーディネーターによる「ムラの軸とトシの軸」では、区内を東西に流れる鶴見川をムラの軸とし、南北に走る鉄道・道路をトシの軸にたとえて話された。6期生の大きくなずきながらメモをする姿に、緑区を再認識できたと思う。
- 区社協による区内の施設の説明では、今まで気にしていなかった建物が地域福祉の拠点であることや組織、仕事の内容、役割を知ることができた。
- 山路・松岡さんによるトークは、二人の対話だけで終わるのではなく、対話を通して、受講者に質問しやすい雰囲気を作り出していた。その雰囲気は、6期生にも伝わり、対話するコミュニケーションがうまく図られていたと思う。聞くだけではなく話す機会も作る参加型のスクールの良さを感じた。
- ズーム画面を大型スクリーンに映したことにより、前方を見ているだけで、会場全体の様子を把握することができたことは、大変良い企画でした。（担当ナビゲーター：金子）
- 今後受講生の皆さんが活動を始めたときに、一緒に活動を考える支援機関の紹介をしました。すでに活動している団体に入るための相談はもちろん、団体の立ち上げ・継続に関わることや、地域情報を把握している機関です。夢プランの実現に向けて、相談できる先の一つとして頭の片隅に置いていただくと嬉しいです。
- Zoom 越しではありますが、修了生の皆さんからの激励の言葉を受講生に紹介することができました。今年は修了生との交流の機会が少ない分、この講を通して6期生へも修了生の思いが伝わる場にもなったと思います。（緑区社会福祉協議会：西田）

令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第4講 夢プラン作成にむけて Part 1

講師及び担当：竹迫講師、神田、田中

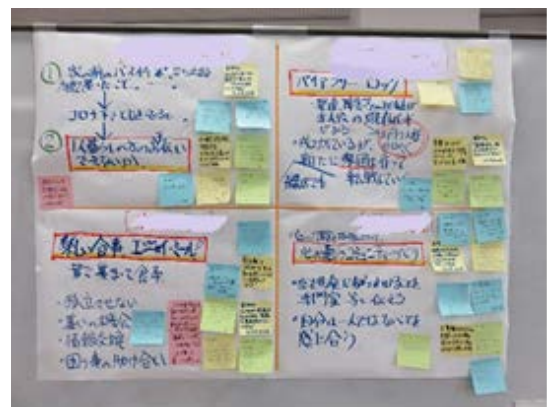
日 時：令和2年10月3日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）
参加者：6期生（8）、講師、コーディネーター、ナビゲーター（5）サブナビゲーター（3）、都筑区（1）、副区長、事務局（3） 合計23人
Zoom参加：5人（修了生、他区より）

●学習目標

1. 受講者それぞれが何をやりたいと思っているのかにじっくり耳を傾け、それぞれの「夢プラン」作成にむけた情報交換を行う。
2. 自分がやりたいことを他者にもわかりやすく伝えるための設計書（夢プラン）の作り方、表現の仕方を学ぶ。

●内容

1. オープニングタイム
 - ・本日の趣旨、ファシリテータの紹介&アイスブレイク（誰でもピカソ）
2. 夢プランにむけての芽だし&企画づくり（「私のやりたいこと」、「やりたいことは地域のどんな課題解決につながるのか」）
 - ・2人一組になってお題についておしゃべりタイム。
 - ・A3の紙に「やりたいこと」、「地域の課題」を書き、ひとり2分で発表した。
 - ・発表内容に対して、受講生、修了生、ナビゲーター、講師が感想やアドバイス等のコメントを書き、掲示した。
 - ・骨太シートの「ビジョン」「目的」「対象」「到達目標」「連絡先」を考えた。。
3. クロージングタイム
 - ・コーディネーター、講師からのコメントが寄せられた。
 - ・次回までに、夢プランを実現するための社会資源が周りにあるか、必要か調べてくることが宿題となった。



6期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



- 6期生の参加者、それぞれのやりたいこと想いを具体的に聞いたこと。講師、コーディネーターのコメントも参考になりました。
- ひとりでは決してできないことでも繋がり、共有することによって少しずつ具体化されていくのだと実感しているところです。
- 講師から無限にでてくるアドバイス、いずれもレベルが高く、実効性やその内容に感服しました、感謝いたします。
- 共感を得るためには、伝え方が大切というお話が印象に残っています。
- いろいろな方のやりたいこと、やってみたいことを聞きました。考えがみんなそれぞれであることも含めて、いいことを聞いたと思います。
- 講師の方々のコメントにはきょうのプランニングのためだけでなく、日頃の仕事をする上でとても役立つ気づきがたくさんあった。
- 6期生とナビゲーターのみなさんとのコミュニケーションの場となったのでよかったです。
- 私の家の近くで同じ考えの人を探すことができればいいと思いました。
- きょう、多くの方々から直接、自分のプランに関するお話やアドバイスを伺うことができとても楽しかったです。
- 自分で何となく考えていたことを実際に「文字」にし、さらに言葉（発表）にすることで、他の方からの反応があり、グッと現実味をおびてきたと感じました。



コメント欄（担当ナビゲーター：神田）

- 第1講から第3講までは講義を聞いて理解する受身の講座でしたが、第4講からは各自の夢プランを骨太シートに整理し、発表したり、感想やアドバイスを付箋に書いたりするワークショップを行いました。
- 講座時間が従来の半分程度と短いため、第4講にむけての宿題として骨太シートのビジョン、目的を考えてくるようお願いしましたが、受講生の皆さんはきちんと整理してきた様子で、発表もスムーズ、宿題の効果が有ったと思いました。
- 受講生が発表し、コーディネーターが発表内容のキーワードを模造紙へ書き込み、受講生を中心に感想やアドバイスを付箋に書き、模造紙に貼り付けましたが、どの発表にも多くの付箋がありました。他人の発表に対しても興味を持ち、一緒に考える姿勢がすばらしいと思いました。
- 従来の食事タイムがなく、受講生間、受講生と講師・ナビゲーター間のコミュニケーションの場が少なかったのが残念でした。
- ズームによるオンライン講座が毎回レベルアップして、実用に耐えうるレベルになったと思いました。
- 講座時間が短かったため、希望者のみ10月24日に補講を開催しましたが、5名が参加しました。今年の受講生は意識が高く、レベルも高いと感じました。
- イッツコム取材があり、講座の様子や受講生等のインタビューの撮影が有りました。

令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第5講 夢プラン作成にむけて Part2

講師及び担当：竹迫講師、神田、田中

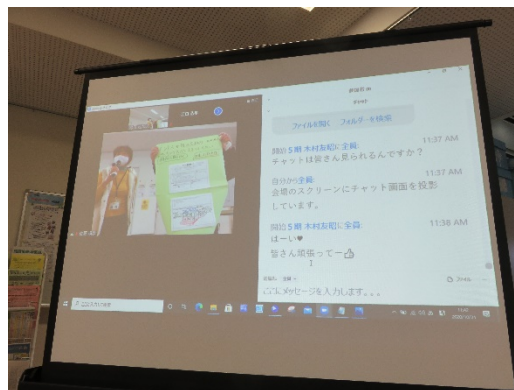
日 時：令和2年10月31日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）
参加者：6期生（5、Zoom 受講1）講師、コーディネーター、緑区社会福祉協議会、ナビゲーター（5）サブナビゲーター（3）事務局（3） 合計：19人
Zoom 参加：7人

●学習目標

1. それぞれの「夢プラン」作成にむけた作業と情報交換を行う。
2. 自分のやってみたいことを他者にわかりやすく伝える力、そのプランがどうしたらもっとよくなるのかアドバイスできる力を磨く。

●内容

1. オープニングタイム
 - ・本日の趣旨説明後、4 講欠席者より「やりたいこと」の発表を行った。
2. 夢プランにむけての情報交換&練り直し
 - ・受講生、ナビゲーター等のグループ内で、夢プランを紹介&相談し、意見や感想をもらい、夢プランを練り直した。
 - ・模造紙に夢プランを貼り付け、「ビジョン」「対象」「名前」記入。
3. 夢プラン展覧会&お知恵拝借タイム
 - ・受講生が全体の前で模造紙を見せながら発表した。
 - ・発表終了後、模造紙をテーブルに広げ、受講生やナビゲーター等が周りながらアドバイスや感想を付箋に書き、模造紙に貼っていった。
4. クロージングタイム
 - ・コーディネーター、講師からのコメントがあった。



みどりーむでは3台のカメラを用いて Zoom 配信。修了生へも6期生の「夢プラン」が共有され、チャットで意見、感想がよせられた。

6期生の「学びのふりかえり」より（抜粋）



- みんなの前の夢プラン発表からより具体的なプランになり実現に向けてのアドバイスがとても参考になりました。多くの方のアドバイスも含め自分だけでは気づけないこと、これからの課題がわかり活かしたいと思いました。
- 自分の考えていることとよく似た意見を持っている方が他にもいらっしゃるのだと思いました。
- 居場所作りをテーマに考えている人とつながれるといいなと思いました。
- 夢プランシートが他者にやりたいことを伝えるための重要なものであることが作っているうちにわかってきました。
- コーディネーター、ナビさん、サブナビの方に大きな夢から実際に絞り込んだひとつ、ひとつの課題をクリアしていくことで実現に近づくというアドバイスをいただいて腑に落ちたというか納得しました。
- 私のプランに的確な助言をありがとうございました。以前より具体的にプランが考えられました。
- 講師やサブナビさんの温かい励まし並びにアドバイスをありがとうございました。大いに参考にさせていただきました。
- いよいよ最終回も近くになり具体的なプラン作りを一堂に見られてよかったです。
- 大勢の方々の協力によってこの「ひと・まち」スクールが成り立っているのだと感じました。



コメント欄（担当ナビゲーター：神田）

- 第4講欠席者の発表で、第5講も欠席した受講生の代理発表は欠席者へのフォローとして大変よかったです。11月1日に欠席者の補講を行い、夢プラン提出に繋がりました。
- ズームのチャット機能を活用した意見交換やアドバイスを実践できたことはオンライン講座の可能性を感じました。
- 最初は夢プラン作成に戸惑いも見られましたが、受講生間や講師・ナビゲーターとの意見交換やアドバイスで、具体的なイメージを思い描けるようになってきたと思います。第6講の発表が楽しみです。
- 6期生は居場所づくりの夢プランが多く、既存の施設への見学などは皆さんで連絡を取り合い、一緒に見学し、感想を話合ったり、情報交換しながら活動を進めていけばいいと思いました。
- ひと・まちスクールは夢プランを作成することだけが目的ではなく、夢プランを育て、夢プランを実現することが目的です。
緑区の支援制度を活用して、夢の実現を図ってほしいです。
- 夢プランを実現するためには長い時間がかかります。夢を諦めずに今できることから活動を始め、活動を継続して行く必要があります。アフターフォローの充実を望みます。また、講座修了後もみどりーむを活用し、みどりーむに関わって活動していただきたいと思います。

令和2年度 みどり「ひと・まち」スクール実施記録

第6講 修了式、夢プラン発表会

講師及び担当：名和田学長、山路コーディネーター、岡部、森

日時：令和2年11月14日（土） 場所：緑区市民活動支援センター（みどりーむ）
参加者：6期生（7）、名和田学長、コーディネーター、緑区社会福祉協議会（2）ナビゲーター（5）、サブナビゲーター（3）、緑区長、事務局（3）合計:23人
Zoom参加：10人（修了生）

●修了式

令和2年度のスクール総まとめとして、修了証書、皆勤賞、受講証明書を6期生へ手渡した。

6期生代表は答辞の中で「子育てをしている最中であるが今後は自分が何か地域で役立つことができないかを考えていた。そんなときにスクールの存在を知り受講した。学びを進めていく中で「世代を超え、ゆるやかにつながれる場」を作りたいと感じた。スクールを運営するみなさんからのアドバイスをもらううちに「ひと・まち」スクール自体が私にとっての「世代を超えてつながる場」であることに気づいた。ひとりでは難しいことでも協力者がいることで前に進める想いを深くした。」と結んだ。

●夢プラン発表会

出席した6期生7人による「夢プラン」の発表があり、学長から講評をもらった。

- ・一人暮らしの方の穏やかな見守り
- ・おむすび食堂
- ・中山駅北口駅前イメージアップ大作戦
- ・HeartWarming コミュニティを設立
- ・大きな〇〇の木の下で ホットー息つきませんか。
- ・働くママたちが世代をこえて地域の人とつながることができる居場所づくり
- ・インド人女性のためのワーキングスペース、個人起業支援スペースを作る

名和田学長より

自治会活動がコロナの打撃を受けているこういう状況下でも、なんとか工夫をして頑張っている。地域の繋がりが出来ず孤立している人が出ている。みどり「ひと・まち」スクールの修了生も前を向いて進んでほしい。

6期生のアンケートより（抜粋）



- 今年度はコロナ禍でもあり、企画の大変さを感じました。受講にあたっては細心の注意で準備していただいたこと、Zoomの活用もタイムリーだった。また、Zoomからのコメント反映していただき「つながり」を感じた。
- 開講式から最後までありがとうございました。私も諸先輩のようにアクティブに活動できる日がくると信じています。
- 発表に対して、コーディネーター、ナビゲーター、サブナビゲーターのみなさんからのアドバイスが丁寧で、ありがたかった。スクールで初めて学び、プラン作りの重要性を感じた。「学びのふりかえり」に対する返信コメントをもらったことが最後まで参加できた要因のひとつとなった。
- 今年度は受講時間が短くなったが、ナビゲーター、サブナビゲーターの紹介がほしかった。
- 充実したカリキュラムであったこと、サポート体制がとても素晴らしく温かい雰囲気があり、頑張ることができた。



修了式を記念して



夢プラン発表会



修了生とZoomで交流

コメント欄（担当ナビゲーター：岡部）

- 修了式では、居場所づくりや繋がりに関するテーマなど素晴らしい夢プランが発表されました。今後は、勇気を持って実行し、夢プランの成果に期待します。
- 今年度は新型コロナウイルス感染症対策として受講生の安全を第一に開講しました。みどり一むに來ることができない修了生へはZoom配信を行い、参加してもらいました。受講時間の短縮、懇親会、交流会の中止を余儀なくされましたが、修了式では、6期生の横のつながりが生まれうれしく思いました。